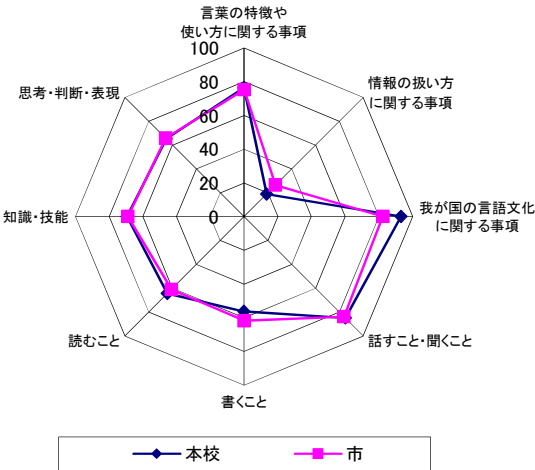


宇都宮市立海道小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.5	75.3	77.1
	情報の扱い方にに関する事項	19.0	26.5	27.8
	我が国の言語文化にに関する事項	93.1	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	85.1	83.9	84.2
	書くこと	56.3	61.7	64.5
	読むこと	64.4	60.9	61.0
観点別	知識・技能	69.5	68.8	70.3
	思考・判断・表現	65.3	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

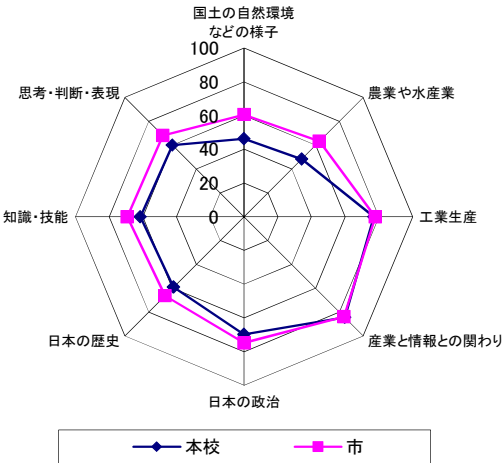
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	平均正答率は76.5%で、市の平均より1.2ポイント高い。 ○漢字を読む問題の正答率は全てにおいて市の正答率を上回った。 ●敬語について理解し、正しく使う問題では、正答率が37.9%で、市の正答率を14.1ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きでは、テストや自主学習において繰り返し復習させることで基礎力を伸ばしていく。 ・相手や状況に応じた敬語を日常生活の中で継続的に使うようにすることで、敬語について学ぶ機会を増やし、使い方の定着を図っていく。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は19.0%で、市の平均より7.5ポイント低い。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題、目的に応じて文章を簡単に書く問題の正答率は、ともに市の正答率を下回った。	・日頃から、新聞記事や図書資料、インターネットなどから様々な情報にふれる機会を増やしていき、必要な情報を読み取ったり情報をもとに自分の考えをまとめて文章を書いたりする学習を通して、情報を整理する力を育てていく。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は93.1%で、市の平均より10.7ポイント高い。 ○語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語についての理解を問う問題の正答率は93.1%で、市の正答率を10.7ポイント上回った。	・語句について学習する際には、その由来や背景を捉えさせたり、生活と結び付けて考えさせたりすることで、知識・技能の定着を図っていく。 ・語句の由来や背景を自ら調べる活動を取り入れ、興味関心をさらに高められるようにしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は85.1%で、市の平均より1.2ポイント高い。 ○インタビューを聞き、話の内容を捉えたり意図に応じて質問を工夫したりする問題の正答率は約90%で、市の正答率を上回った。 ●インタビューを聞き、自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える問題の正答率は、市の正答率を6.5ポイント下回った。	・授業だけでなく、学校生活の様々な場面で対話的な活動を取り入れ、相手の考えをよく聞くとともに、自分の考えを分かりやすく相手に伝えられるようにしていく。 ・メモの取り方について丁寧に指導し、話し手の意図を正確に聞き取り、まとめられようにしていく。
書くこと	平均正答率は56.3%で、市の平均より5.4ポイント低い。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題の正答率は51.7%で、市の正答率を15.1ポイント下回った。	・作文や日記指導など、日常的に書く活動を積極的に取り入れ、書くことに対する抵抗感や苦手意識を軽減するための指導を継続していく。 ・指定された条件に応じて書くことができる力を育てていくために、様々な条件を提示しながら文章を書かせ、内容に応じて段落を意識させながら自分の意見を入れて文章を書けるようにしていく。
読むこと	平均正答率は64.4%で、市の平均より3.5ポイント高い。 ○説明文の叙述を基に文章の内容を捉える問題の正答率は75.9%で市の正答率を16.7ポイント上回った。また、物語において登場人物の心情や様子を捉える問題の正答率も、市の正答率を8ポイント以上上回った。	・国語の授業において、今後も文章を丁寧に読み取る活動を継続して行うようにする。また、指示語や接続語などに注目しながら段落相互の関係を捉え、文章構成を理解できるようにしていく。 ・朝の読書の時間や「うちどく」を積極的に推奨し、物語だけでなく、説明文をはじめとした様々な分野の本に親しむ機会を増やしていく。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	46.2	60.5	65.8
	農業や水産業	48.3	63.3	66.0
	工業生産	77.0	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	84.5	83.8	76.6
	日本の政治	69.8	74.9	74.1
	日本の歴史	59.1	66.3	68.3
観点別	知識・技能	61.5	69.3	71.4
	思考・判断・表現	60.1	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

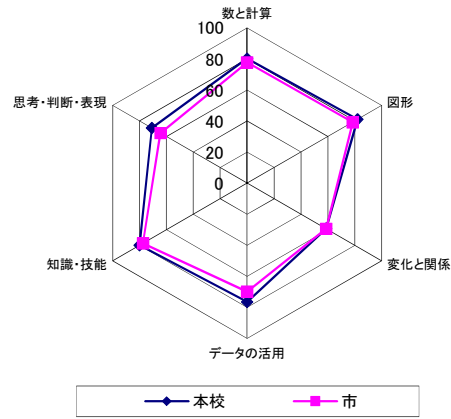
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は46.2%で、市の平均より14.3ポイント低い。 ○日本の周辺の海洋名を問う問題では、正答率が市より5ポイント高く、理解していることが分かる。 ●地図をもとに考え、その理由を表現する問題や、意味から用語を答える問題では、正答率が市の平均を大きく下回った。記述で答えることに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・国土の位置や広がり、特徴などについて、写真や資料を見ながら気付いたことや考えたことを話し合ったり自分の言葉で記述したりすることで、表現力を育てるようにする。 ・地図帳の使い方や雨温図の読み取り方などを授業の中で丁寧に確認することで、グラフを読み取る力を育む。また、「季節風」「梅雨」など地位的用語を覚えられるようにする。
農業や水産業	平均正答率は48.3%で、市の平均より15ポイント低い。 ●普段食べている主な食料の日本の自給率に対する理解に課題が見られる。	・自分たちの食生活と食料生産の課題を、食料自給率や食料確保の変化と結び付けながら調べたり、分かったことを自分の言葉でまとめたりすることで、理解を深められるようにする。
工業生産	平均正答率は77.0%でおよそ市の平均と同じであった。 ○自動車の製造工程を写真資料から読み取る問題の正答率は93.1%で、市より2.9ポイント高く、理解している様子が伺える。	・日本の輸出入について、主な品目(燃料や原料、工業製品などの機械類、食品の等)や相手国など関連付けて理解できるようにする。
産業と情報との関わり	平均正答率は84.5%で、市の平均を0.7ポイント上回った。 ○インターネットを利用するときには注意することについて資料から判断する問題の正答率は93.1%で、市の平均を0.2ポイント上回った。	・自分たちの生活に欠かせないインターネットやSNSについて、日常的に話題にしたり善悪の判断を問う機会を増やしたりすることで思考力や判断力を養えるようにする。
日本の政治	平均正答率は69.8%で、市の平均より5.1ポイント低い。 ○租税の役割について資料を読み取り答える問題では、市の正答率を7.8ポイント上回り、理解している様子が伺える。 ●議会政治について答える問題では、正答率が41.4%で、市より11.6ポイント低い。	・基礎・基本の学力が定着するよう、振り返る場を計画的に設け、知識の定着を図るようにしていく。 ・国会や内閣、裁判所、選挙、税金に関するニュース、時事の問題を日常的な話題の中で取り上げるにより、実感をもって学ぶことができるようにしていく。
日本の歴史	平均正答率は59.1%で、市の平均より7.2ポイント低い。 ●歴史領域の全項目において市の平均を下回る結果となった。	・出来事が起こった年だけでなく、その理由や背景を考え、ノート等にまとめることで、思考力・判断力・表現力を育てるようにしていく。 ・基礎・基本の学力が定着するよう、振り返る場を計画的に設けて知識の構築を図るようにしていく。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.3	77.7	78.6
	図形	82.1	78.4	74.4
	変化と関係	58.6	58.7	53.0
	データの活用	76.4	69.9	57.2
観点別	知識・技能	80.1	77.5	74.0
	思考・判断・表現	70.9	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

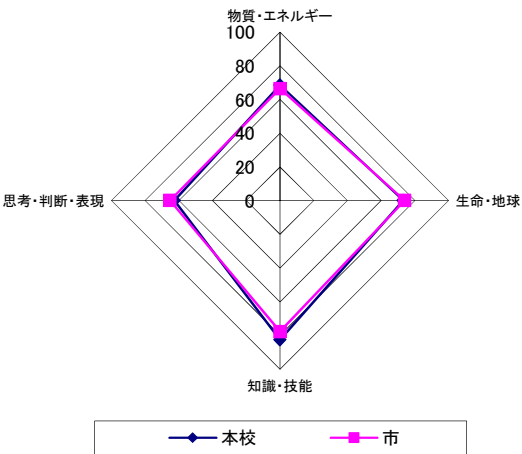
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は80.3%で、市の平均より2.6ポイント高い。 ○小数の計算の正答率は、市の平均より全て高い。小数の乗法の文章問題を表した図を選ぶ問題や、その図を読み取って式に表す問題の正答率は、市の平均を5.9ポイント上回り、小数の内容を理解していることが分かる。 ●分数では、計算の正答率は、市の平均と同程度か5.9ポイント低いものがある。特に文章題の、比較量、基準量が分数の場合において、比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶ問題の正答率は、市の平均より6.8ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎・基本の内容を確実に定着させるため、計算ドリルやAIドリルを活用しながら、既習の内容の復習を朝の学習や家庭学習の中で繰り返し行っていく。 ・小数は日常生活の中でもよく使用されているので、児童にとって身近な数として認知されているが、分数は日常生活で目にする機会がほとんどない。分数で表すよさや、分数で表した時の数の大きさの量感などを身に付けさせていく。 ・授業の中で、文章問題の題意を正しくつかみ、「どのように問題を解決していけばよいのか」という見通しをもたせ、数直線や図に表しながら自分の考え方を分かりやすくまとめたり、説明したりする場を多く設定する。
図形	平均正答率は82.1%で、市の平均より3.7ポイント高い。 ○対称な図形の問題の正答率は、どちらも96.6%と高く理解している様子がうかがえる。ひし形の面積を求める問題では、正答率が市の平均を10.4ポイント上回った。 ●図に示された四角形の内角の和の求め方を説明する記述式の問題では、正答率が市の平均より13.9ポイント上回ったが、51.7%と低いので、求め方を順を追って説明することに課題が見られる。	・身のまわりの図形に関心をもたせ、日常生活と関連させたり、具体物やタブレット等を操作したりしながら、図形についての理解を深め、学習内容の定着に努める。 ・図形の性質等を理解させ、それらを利用して角度を求めたり長さを求めたりする際に、なぜそうなるのかを説明したりする活動を授業において充実させることで、順を追って説明する力を育てていく。
変化と関係	平均正答率は58.6%で、市の平均とほぼ同じである。 ○速さの単位を理解し、分速を秒速や時速に直す問題では、正答率が市の平均より7.8ポイント上回った。 ●表から面積と人数の割合を求め、どのプールが最も混んでいるかを考察する問題は、正答率が48.3%で市の平均を6.6ポイント下回った。	・単位量あたりの大きさについて、日常生活の場面にあった問題等で見通しを持たせ、数直線や図を用いて考えたり、なぜそうなるのかを説明したりする活動を取り入れることで理解を深めていく。
データの活用	平均正答率は76.4%で、市の平均より6.5ポイント高い。 ○ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する問題では、正答率が市の平均より20.9ポイント上回った。身の回りの事象などから問題を多く設定し、データの収集・分析を自分事として学習をした成果が表れたと考える。	・児童の身の回りの事象などから問題を設定し、児童が知りたいと決めた目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択して分析を行う活動を充実させていく。自分事として問題を解決したり、解決の過程や結果を考察したりすることで、データを活用する力を養っていく。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	68.5	66.5	66.3
	生命・地球	73.1	74.0	72.6
観点別	知識・技能	82.5	77.6	78.2
	思考・判断・表現	62.7	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ問題による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	領域全体の平均正答率は68.5%で、市の平均を2ポイント上回った。知識・技能に関する問題では正答率が高く、思考力や表現力を求められる問題で正答率がやや低い傾向にある。 ○「物のとけ方」については、全ての問題で市の平均を上回り、特にミョウバンを溶かした後の水溶液の重さを問う問題では正答率が93.1%と高く、市の平均を約20ポイント上回った。 ●「ふりこのきまり」については、全ての問題で市の平均を下回った。特に実験方法の誤りを指摘する問題では正答率が41.4%と低く、市の平均を20.7ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・「物のとけ方」では、基礎的粒子概念に基づく内容(質量保存)や実験技能を、「水溶液の性質」の学習前に復習したことで記憶が強化され、平均正答率が高くなったと考えられる。同じ系統にある内容を学習する際に適宜復習していくことで、基礎的な知識・技能の定着を図っていくようにする。 ・「ふりこのきまり」の問題をはじめ、長文の間隙を埋める問題での正答率が低かった。基礎的な知識・理解の定着が不十分だった上に、意味を損ねずに文章を完成させることに課題があると考えられる。表現力を高めるため、結果や考察をまとめる際、専門用語を適切に用いて、過不足なく言葉を選んで文章に表す活動を意図的に取り入れていく。
生命・地球	平均正答率は73.1%で、市の平均と同程度であった。 ○「植物のつくりとはたらき」では、全ての問題で市の平均を上回った。特に茎を縦に切ったときの断面の様子について問う問題では、市の平均を9.6ポイント上回った。 ●「天気の変化」については、全ての問題で市の平均を下回った。特に台風が上陸しやすい時期に関する知識をダムの運用に応用する問題では、市の平均を6.5ポイント下回った。	・「植物のつくりとはたらき」では、実際に観察して確かめた茎の断面の様子についての正答率が高かった。逆に実験等が難しい「天気の変化」については正答率が低かった。今後、可能な限り実験や観察を効果的に取り入れ、実感を伴った理解が得られるような学習を展開していく。また、実験や観察が難しい内容においては、ICT(動画やシミュレーター等)を活用していく。 ・「生物とかんきょう」のアメリカザリガニが水草を切ることが環境に与える影響を推察する問題や、「天気の変化」で台風が来る時期とダムの運用を関連付けて考える問題など、何段階か思考を重ねるような問題での正答率が低い。根気強く筋道を立てて考える活動を必然性をもって意図的に取り入れ、考え抜く力を育てていく。 ・自分の生活と学習内容を関連付けられるよう、学習した内容を使って身の回りの事象を捉えなおす活動を意図的に取り入れていく。

宇都宮市立海道小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
定着を図るための学習活動の充実	単元及び授業の導入の場などで、前学年までの内容や既習事項を確認する機会を設定したり、視聴覚教材を活用し進んで学習に取り組むような学習活動を工夫したりすることにより、定着を図っている。	国語と算数、理科では、知識・技能の観点や、基礎の問題において市の平均を上回り、昨年度から学習活動を工夫し、学習の定着を図ろうとした結果が表れた。しかし、国語の「書くこと」の領域で、市の平均を5.4ポイント下回り、他教科でも筋道を立てて説明する記述問題に課題が見られた。
対話的な学びを通して、共に高め合える集団作り	協働的な学び合いを通して、他者の意見や考えに触れ、自分の考えを見直す活動を大切にする中で、深い学びの実現を図っている。	「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」は、ほとんどの学年が市の肯定割合を上回っているが、下回っている学年もあった。また、「根拠をあげながら話すこと(3年生以上)」については、高学年は市の肯定割合を上回った。
児童が自分で成長を実感できる振り返り活動の工夫	単元や内容のまとまりを見通した授業展開と見通しと振り返り活動を重視した授業作りを行う。また、児童一人一人のがんばりやよさを見取り、教師が価値づけをすることで、児童が自分で成長を実感できるような支援をし、自信をもって学びを深める児童の育成に努めている。	「学習した内ようについて、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる(3年生以上)」については、市の平均を上回っている学年もあったが、やや下回った学年もあった。低学年では、「自分から進んで学習に取り組んでいる」の肯定割合が高かった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国・県・市の調査結果から、4・5年生は「話すこと・聞くこと」、6年生は「書くこと」の領域の平均正答率が低い。また、児童質問紙調査において、「自分の考えを、理由をあげながら話すことができる。」と肯定的に回答した児童は、どの学年においても4月に行われた調査より増加した。授業において、自分の考えを記述する機会を意識的に設けたり、相手意識をもって自分や他者の考えに理由を加えて話し合ったりする活動を継続していくことで、表現力の育成を図っていく。

・児童質問紙調査において、「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」は、ほとんどの学年が市の肯定割合を上回っているが、下回っている学年もあった。目的をもった班活動を適切に授業に取り入れ、友達と考えたことを共有したり、話し合ったりすることの楽しさやよさを実感させる工夫に努めていきたい。

・児童質問紙調査において、「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。」の設問では、ほとんどの学年で肯定割合が高かったことから、児童一人一人の「できた」「わかった」を価値づけ、主体的に学ぶ意欲へつなげていきたい。そして、児童自らが成長を実感し、次の学習に生かしていけるような活動の充実に努めていきたい。